

農 に 生 き こ る



「農産物は 生産者の鏡」

豊橋市小島町

朝倉郁也^{あさくら いくや}（30歳）さん



「家は元々、梨とハウスミカンを栽培していましたが、父が9年ほど前、ハウスミカンをやめてイチゴに切り替えました」と話す郁也さん。イチゴに切り替えて2年した頃、郁也さんも就農し家族で梨とイチゴを栽培するようになりました。そして3年前、郁也さんがイチゴの管理を任されるようになりました。しかし任されて1年目、水の管理がうまくできず失敗。2年目は前半危なかったものの、自分なりに勉強したり、わからないことは父親や部会の先輩に聞いたりしながら慎重に管理。その結果後半は盛り返し成功しました。「1年目の失敗があり、2年目の経験があった。努力した分、成果がでるし、手を抜けばそれなりの成果しかでないことを痛感した。農産物は生産者に素直に応える。だから農業は面白い。これまで以上に農業のやりがいを感じま

した」と郁也さんは話します。失敗したことをプラスに変えて生産者としての醍醐味を見つけたようです。5月までイチゴの収穫は続きますが、4月に入ると梨の作業も始まるので忙しくなるそうです。忙しくても農業の面白さを知った郁也さんなら楽しく仕事ができそうですね。今後の目標を聞くと「去年よりもおいしいイチゴ、そして来年は今年よりもおいしいイチゴをたくさん採れるように頑張っていきたい」とのこと。

最後に消費者の方にアドバイス。「イチゴは実の先の方が甘いですが、先の方から食べてしまいがちですが、食べる前にヘタを取ってヘタの方から食べると、より甘さを感じて食べるができます」なるほど、いいことを聞きましたね。

メモメモ…。